

KRP キッチンカー中心地に

少ない飲食店 ランチ難民の街から一転 下京

京都市下京区にあるビジネス拠点・京都リサーチパーク(KRP)に連日キッチンカーが集まり、入居する企業関係者を喜ばせている。周辺には飲食店が少なく「ランチ難民」が課題だったが、今では京都随一のキッチンカーの「中心地」に。多彩な料理が日替わりで楽しめるエリアに様変わりしている。

KRPは、約500の企業や団体が入居し、約6千人が働く。運営するKRPが、隣に飲食を食べられる場所が少ないことが長年課題



昼食を買う人でにぎわう京都リサーチパーク。連日、多彩なキッチンカーが並び人気を集めている

(京都市下京区中堂寺菜田町)

カレー、ラーメン…登録70店 日替わり料理 評判上々

で、入居企業から改善を求め、声も根強かったという。

そのため、同社は2021年4月の10号館オープンに合わせ、同館南側の路地を「ツドイ・ストリート」としてキッチンカーを誘致。平日午前11時半から午後1時半まで出店できるように環境を整えた。

カレーや丼もの、ラーメンやうどん、韓国料理、ホットドッグ、ピザ、ケーキなど登録するキッチンカーは約70台。日替わりで1日4、5台が登場し、肉などを使わないビーガン料理や手ごろな500円弁当を



京都リサーチパークの10号館。南側の通路にキッチンカーが並ぶ

(京都市下京区五条通七本松西入ル)

売る屋台も最大4店が並び、利用者からは「日替わりでご飯を選んで楽しい」「出たての温かい料理が食べられる」と評判は上々。同社は「地区外からの利用も増えている」と手応えを語り、今年から新たに1台分のスペースを増やしたという。

キッチンカーの出店調整を担う「トロウエル」(右京区)によると、京都市内では平日に出店できる場所が大学の構内などに限られており、「京都ではKRPが平日のメインの場所になっている」と指摘する。

昼時だけで100食を売り上げる店もあるといい、出店者からは「屋根があるので雨でも助かる」との声も聞かれる。キッチンカーを始めた人が見学に訪れる場になるなど販売側にとってもKRPの存在感が増しているという。

KRP株式会社は今後、ビアガーデンや家族への土産を意識したスイーツの販売など夕方以降の出店も計画しているという。同社は「ランチの満足度を高めつつ、仕事帰りや休日の地域の人にも集まって楽しんでもらえるエリアにしていきたい」としている。

(高橋道長)